

## 第1学年「図工」の学力向上のための方策

### 児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果**
- 表したいと思うものを素直に一生懸命表現することができる。
  - 作ることを前向きに捉え、楽しんで活動することができる。
- 課題**
- ▼ 道具の使い方に慣れていく必要がある。
  - ▼ 制作活動をする中で、自分の見方や感じ方を広げていく必要がある。
  - ▼ いろいろな形や色を考えながら、どの様に表すか考えていく力が必要である。

### 指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 造形的な面白さ、楽しさを感じながら取り組む力。
- ◇ 用具の使い方を理解し、活動や表し方を工夫する力。
- ◇ 形や色などに関わり、楽しい生活を創造しようとする力。

### 具体的な改善策

#### 主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- 全ての児童の発想が表現できる題材を、開発・改善し、「自分にもできる」と思えるように、導入では簡易的なモチーフを提示して説明する。
- 児童が新しく発見したこと、できるようになったことにしっかりと共感する。
- 毎時間、感性や発想のよさを見つけ、全ての児童に声を掛け価値付けていく。

#### 言語活動の工夫

- 作った作品を自分の言葉で説明させる。
- グループになって他者の作品の魅力を言葉で伝える。

#### ICT活用の工夫

- パワーポイントを使って作業過程を分かりやすく表示する。
- 実物投影機を活用して、制作のポイントを視覚的に分かりやすく伝える。

#### 課題解決力育成の工夫

- できなかった原因を一緒に考え、できるようになるヒントを与える。
- 児童同士で教え合うように促したり、友達の表現を認め合う意識を醸成したりする。

### 達成目標

- 手や体全体の感覚などを働かせ、材料や用具を使えるようになる。
- 造形的な面白さや楽しさを感じながら、表したいものを表せるようになる。
- 楽しく表現したり鑑賞したりすることができる。